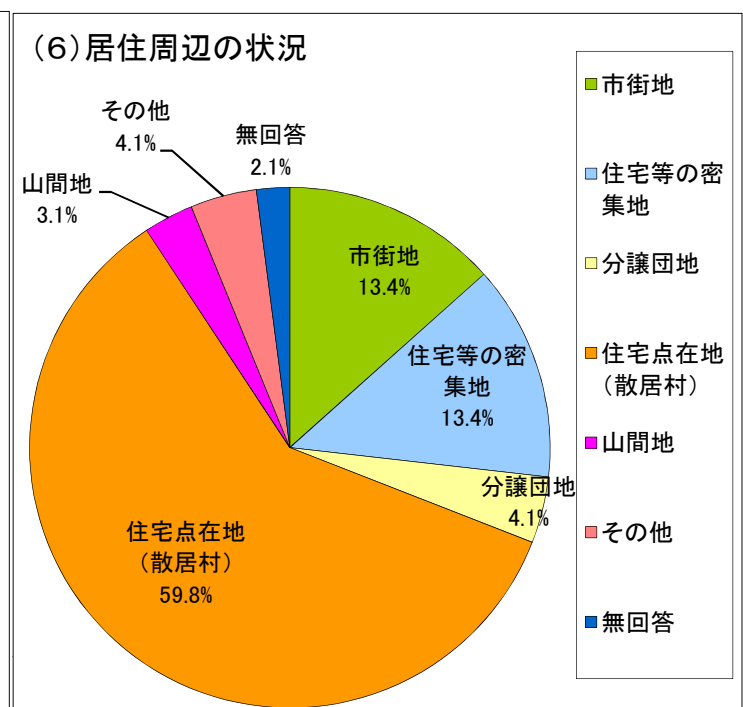
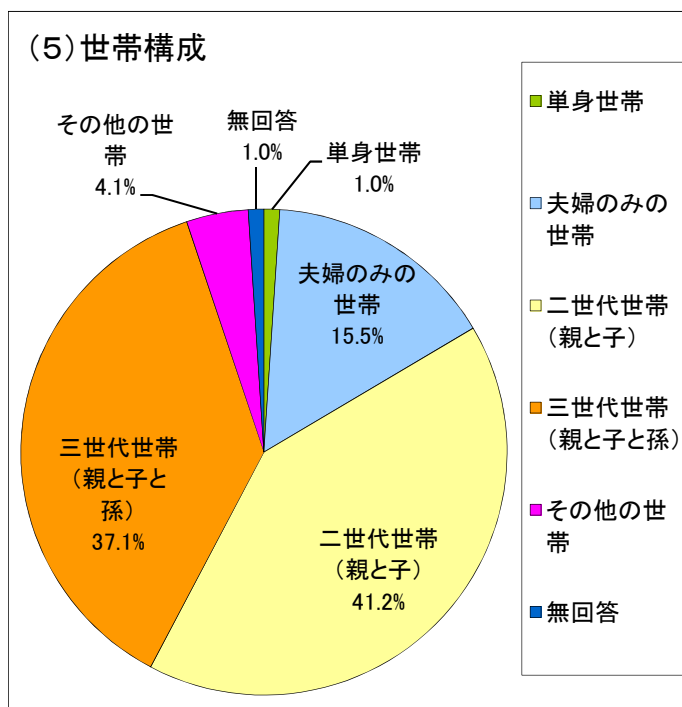
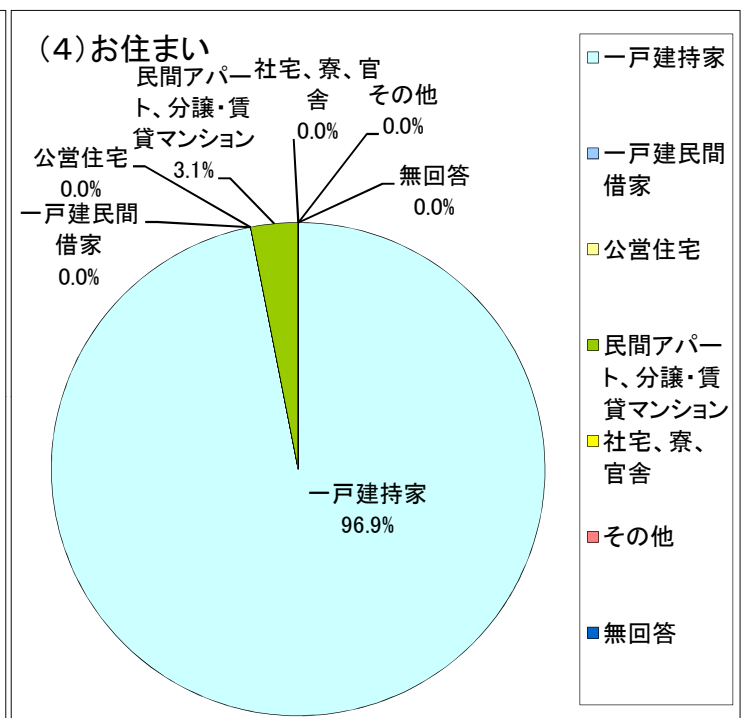
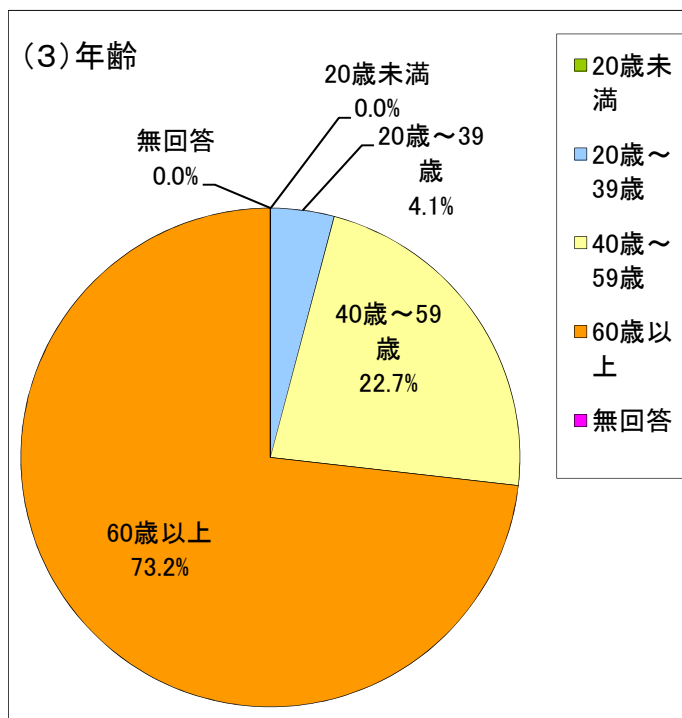
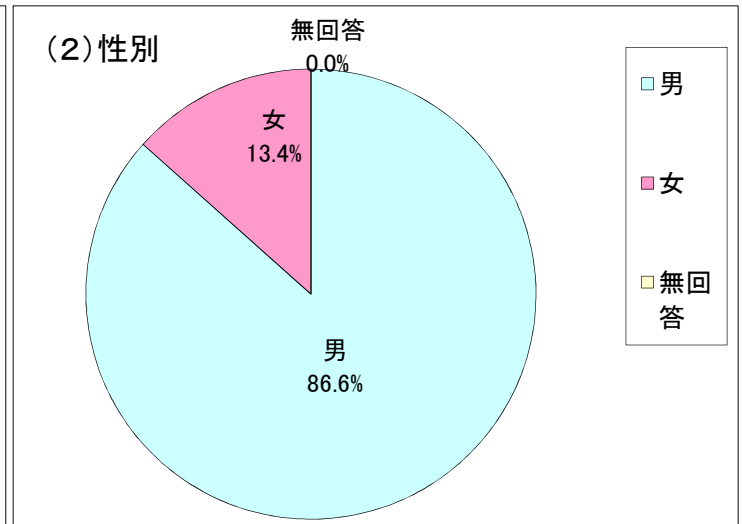
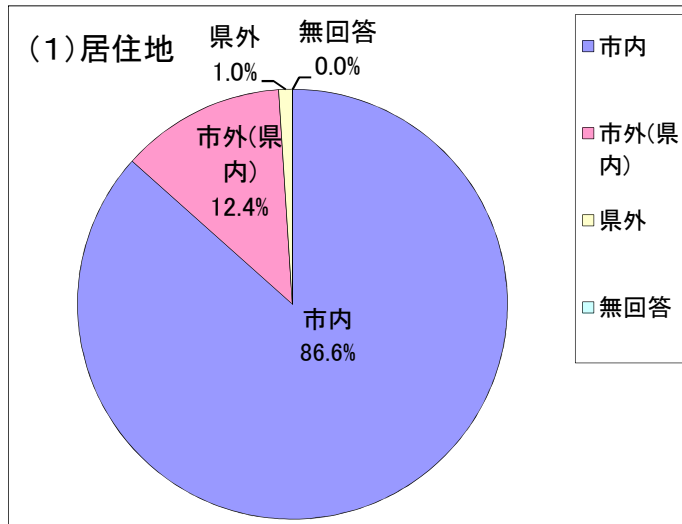
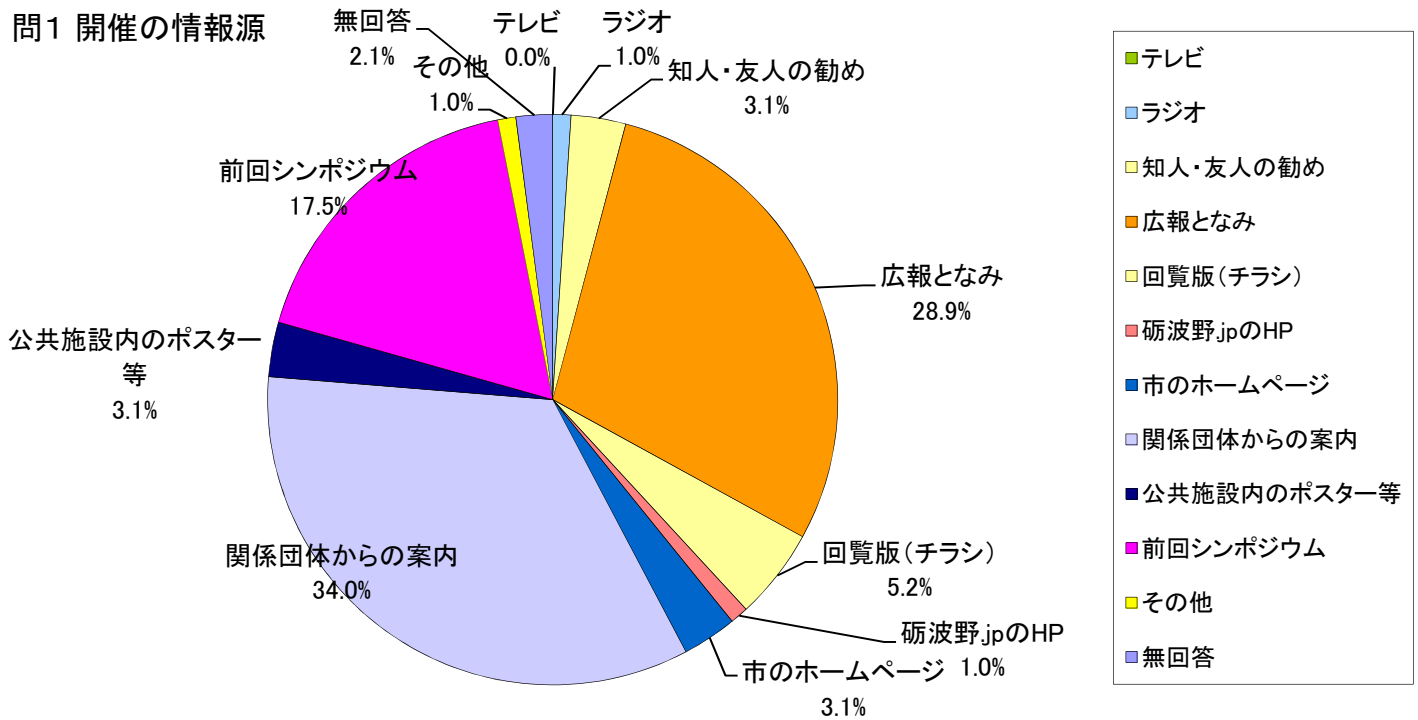


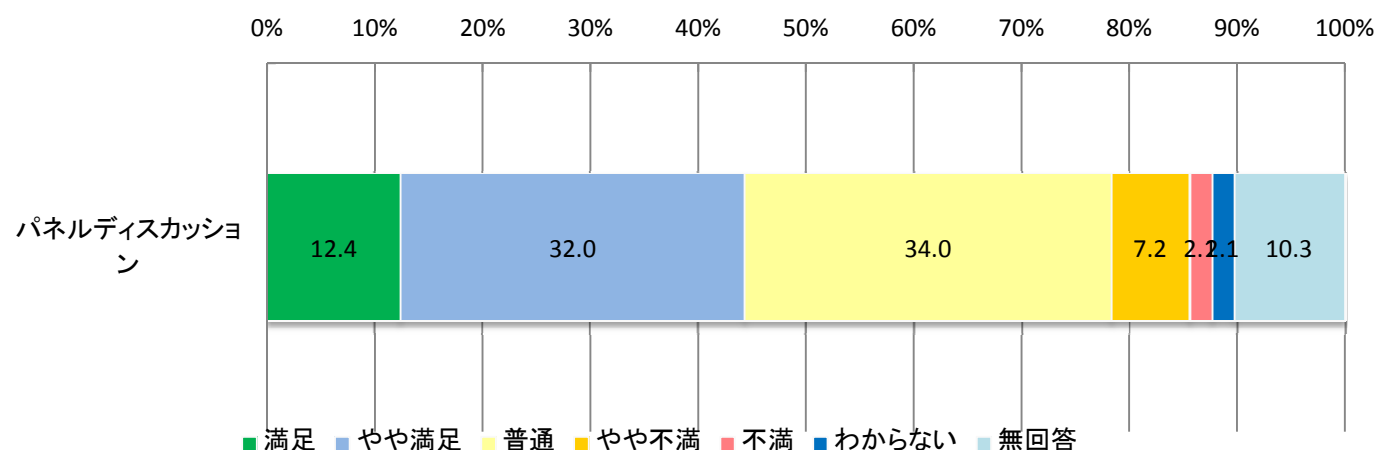


● その他：田園地帯(1件)、農村地帯の集落(2件)

問1 開催の情報源



問2 砺波市景観フォーラムの感想



●上記の理由について

- ・砺波の代名詞散居村、市民の理解が深まり、市の財産である。意義があった
- ・危機感を持った多くの方の参加が良かった
- ・散居村の良さが再認識できた。保全に努力される人がいることが分かった(他2件)
- ・県外からの方の意見が、客観的に受け入れることが出来た(他1件)
- ・様々な問題点が分かりやすく説明されており、勉強になった(他2件)
- ・私の知らない世界が開けた。考え方1つで散居村の見え方が違ってくることを勉強できた
- ・それぞれの立場から専門的な意見を聞いて良かった(他1件)
- ・まさに芋こじ集会(みんなが意見を出してよい方向が見えてくる)だと思います
- ・屋敷林の杉以外の具体的樹木の提案が聞けた。実のなる木を植え、子供を含め関わり、緑の中で遊ばせる大切さを知った
- ・多分野からの意見は分かったが、それらのコラボ(連携)が不十分の感を受けた(他3件)
- ・理想論だけでなく、具体的な問題点や解決策について意見交換して欲しかった(他5件)
- ・活用の成功例、うまくいかなかった例など、具体的事例が聞けると良かった(他2件)
- ・みんなが知っている話題が多かった。逆説的に市街地も良くならなければならない。散居村も保全が難しい。団地の問題もある
- ・テーマである活用と地域の発展に期待していたが、少し物足りない面があった
- ・人材の誘致(尾田さん)、家庭で保育(川邊さん)に共感した。ただ、散居村という形態の維持の必要性は、対観光客としてのものだけなのか、と考えさせられた。珍しい景色＝観光客が興味あるものでもないと思う
- ・現実としてマイナスの真っ只中に住む人の参加、意見が大事である(他1件)
- ・若い世代の考えをもっと聞きたかった
- ・散居村の構成要素である農地の保全についての議論もあれば良かった

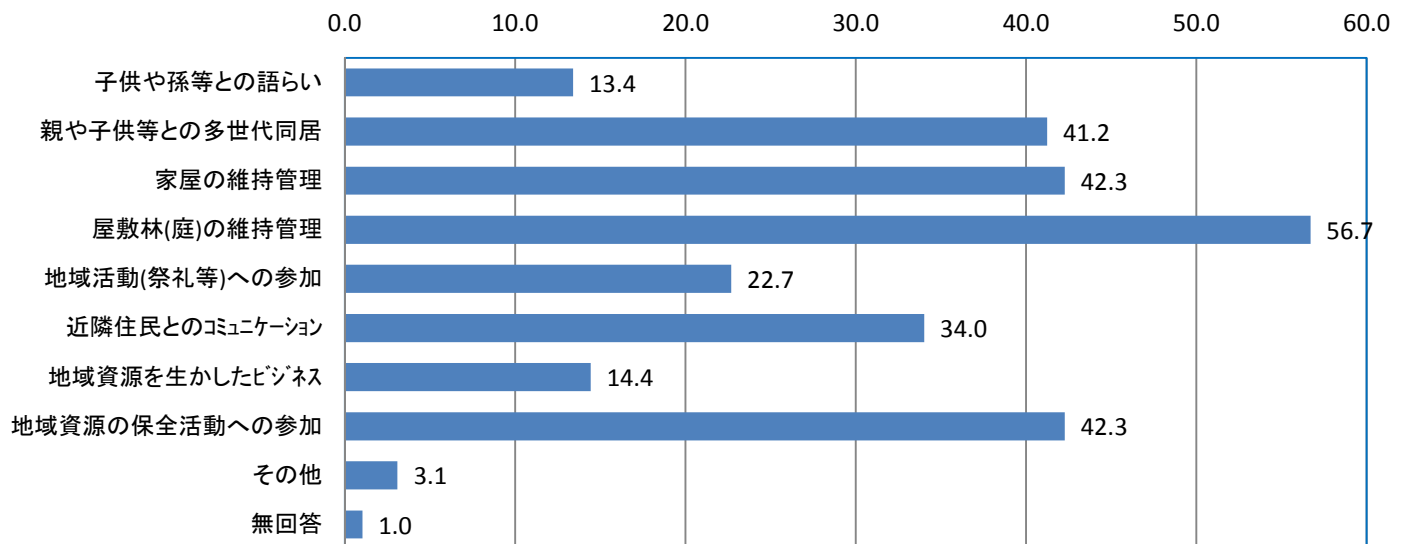
(次ページへ続く)

(前ページ続き)

- ・時間が足りなかった。会場からの意見の時間をもっと欲しかった
- ・スライド等の補助資料が手元にあれば良かった。内容の資料(プリントや写真等)を準備して欲しい
- ・発言者によって要点を言わずに長々と話す人もいて、聞きづらかった(他1件)
- ・このような企画にはエネルギーが必要と思われるが、3回も実施されたことに敬意を表します。但し、みんな同意見の方々なので緊張感に欠けた感じもあった
- ・活きたキーワードが生まれるので、もっと自由なディスカッションが良いのでは(他1件)
- ・更に運営に一工夫が必要と思うが、こうした機会作りをされた事自体を評価したい

問3 個人で行うべきと思う取組(3つ以内回答)

単位: %

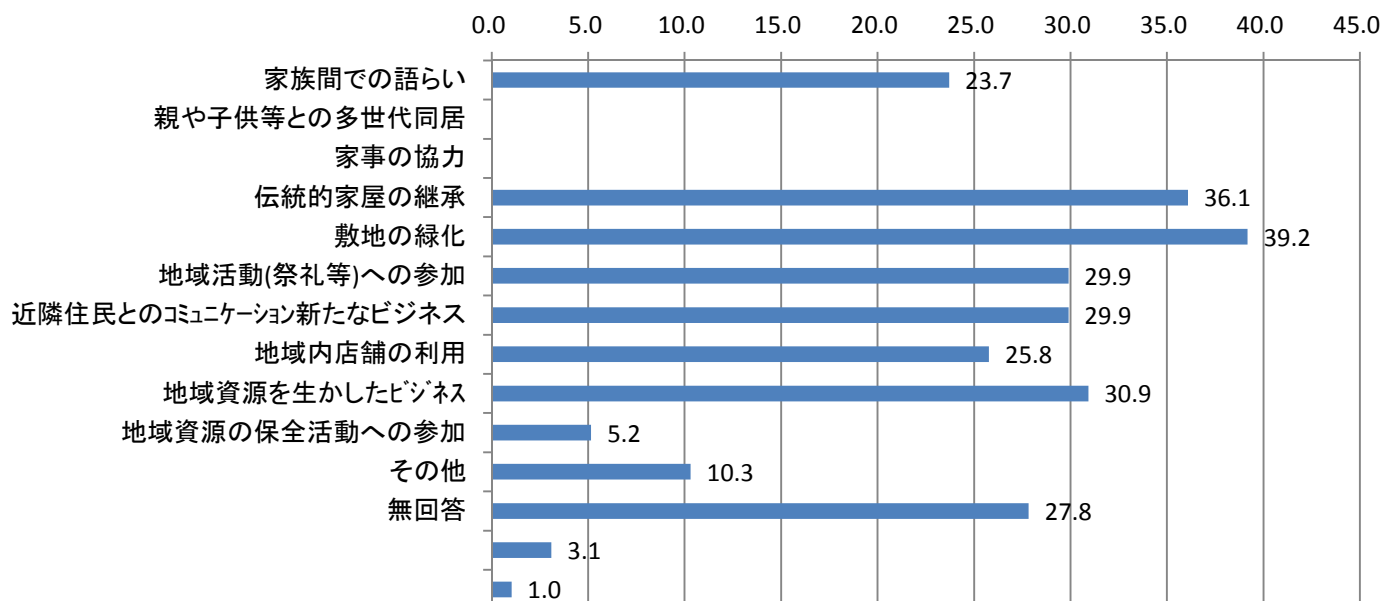


●その他の意見:

- ・若い人達が夢を持って生活できるような、経済的に活力のある散居特有の(定職の働き口が多く提供できる)環境整備の推進を働きかける
- ・農業活性化と空き家を観光に生かし、自然、食生活の豊かさを個々で実感して欲しい
- ・20～30代の意識として、親との同居を楽しむ、住居費の軽減負担となるメリットもある

問4 家族で行うべきと思う取組(3つ以内回答)

単位: %



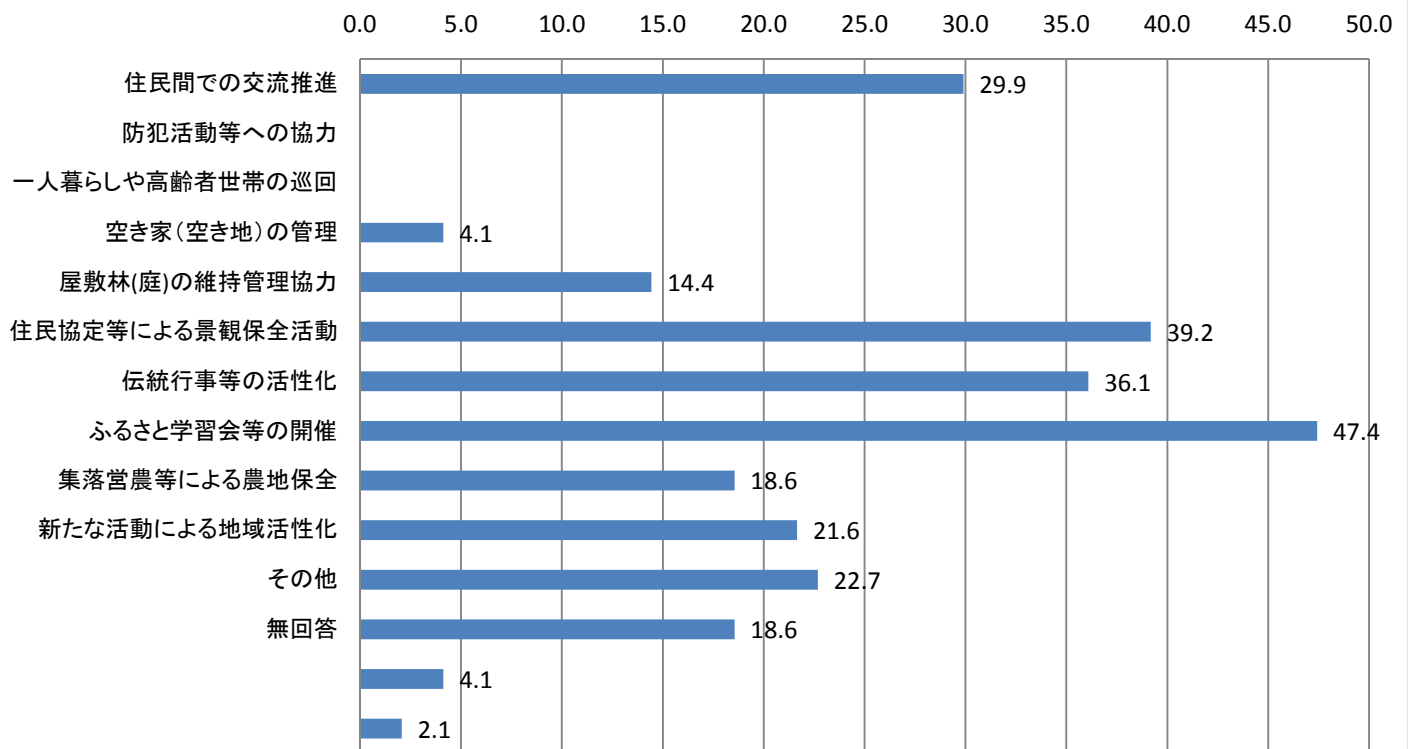
●その他の意見:

- ・近隣の空き家対応(平成〇年に相続者倒産のため空き家となっている)
- ・生産意欲が沸く農業施策、砺波で取れたもので、砺波の消費者の食材を加工品も含めて担う取組
- ・孫を持つ世代の意識として、子世代の考え方を受け入れる傾向があり、今までの事を継承することが全てではない様である

(次ページへ続く)

問5 地域で行うべきと思う取組(3つ以内回答)

単位: %



●その他の意見:

- ・次世代に伝える会をつくる
- ・散居景観を壊す無計画な宅地開発が行われないう、地域レベルで農地転用等のルール作りをする
- ・散居村の維持によってどの様な利益を享受できるのか、地域で検討する
- ・空き家を都会の団塊夫婦の長期宿泊等への活用などを行う

問6 散居村を生かした新たな取組や今回のシンポジウムの感想について(自由記入)

<新たな取組に向けて>

- ・散居村の景観を無くさないよう努力したい【60歳以上男】
- ・身近にある風景をもう一度眺めて、良さを再認識して欲しい(他1件)【20～39歳男・60歳以上男】
- ・景観だけの重視には問題がある【60歳以上男】
- ・社会構造が崩壊してきており、ここから食い止めなければならないと思う【60歳以上女】
- ・散居村について、市民レベルで議論する場を多く設けることが必要(他1件)【20～39歳男・40～59歳男】
- ・散居村の特長をどんどん発信するため、講演会を頻繁に開催すべきだと思う。座談会形式の会合も行うべきである【60歳以上女】
- ・分かりやすい言葉でまちづくりの方向性をみんなで明確にし、一緒に進めるよう取組んでいくのが良い(他1件)【40～59歳男・60歳以上男】
- ・砺波地域に今ある資源として、無くてはならないものだとの住民のコンセンサス統一が必要である。また地域のアイデンティティとして市民、行政が一体となり得る何か(偶然に保全されたのではなく、具体的なモノ)が無いと、一歩先へ進めない気がします【20～39歳男】
- ・市民倫理に訴えるやり方より、具体的にどの様な利益を享受できるかを考えることが重要ではないか【20～39歳男】
- ・住宅の外観が20～30代女性の好みでない、という理由で砺波に戻らないのでは、本末転倒ではないか。散居村という形態の維持が目的であれば、現在居住する方々の思い全てを確認した上で判断すべきである。技術の向上、文化の発展に伴い、住民生活や住環境そのものに対する意識が変わってきているはず。個人的には、市内住宅団地(60坪)に居住しており、広い敷地の家に憧れるが、冬季の除雪を考えると長い宅道には・・となる【20～39歳男】
- ・砺波風の暮らし方とはどういうことなのだろうか。また砺波らしさを残す発展とはどういうことだろうか。これを維持する人は、大変な費用をかけなければならない。今の若い人(次世代)に負荷をかけなければならないが、どう意識づけるかが今後の課題だと思う【60歳以上男】
- ・あくまでも行政が中心となり、作戦本部的な強力な組織をつくり、観光、産業、景観、空き家、個々の家の改築やカイニョ整備、歴史と文化等の部会などを作って進めていく。出町地区という市街地も含め、地域開発と整備をきちんと地図化して市民に提示していけば良い【60歳以上男】
- ・砺波は幅広く何でもやっているが、中途半端が多い。金を集中的に投資する必要がある【60歳以上男】
- ・女性の参加を今後期待します。きっと大きな将来のパワーとなります(婦人会活動を一部止めた地区もあるが、目的が意に合えば、人は集まると思う)(他1件)【40～59歳女】

(次ページへ続く)

(前ページ続き)

- ・ 現実として、横のつながり、つなげ方をどうすれば良いかが分からない【40～59歳女】
- ・ 住宅の建て方も課題である。住宅団地が増えている現状、散居村が出来た当時のことを調べることも大切ではないか【40～59歳男】

＜新たな取組について＞

- ・ 私個人としては、老人会長でもあり、個々の家周りの保全(一人暮らし、老人家族)に努めていきたいと思います【60歳以上男】
- ・ 視点は違うかもしれないが、横浜市の保育対策の様に散居村が保育所になれば、将来的な人づくりにも繋がるのではないかと思うし、住民自らの環境(景観)保全にも繋がるのではないかと思う【60歳以上男】
- ・ 各地域で特徴(花の地域、野菜の地域、果樹の地域など)があるので、それに向けて地域全体が協力できれば良いのだが【60歳以上女】

＜屋敷林の取組＞

- ・ 屋敷林の維持管理が重荷であり、せめて税金面を軽くして欲しい【60歳以上男】

＜空き家の取組＞

- ・ 空き家を借りたいという人を県外から呼び込む方法について、成功例と周りの住民がどの様に接しているのかの問題を1つ1つ解決していくシンポジウムが必要【40～59歳男】
- ・ 空き家を障がい者が共同で利用できるように、情報の提供システムがあれば良い【40～59歳男】
- ・ 空き家は、一個人の財産(仏壇、家具等)に思い出を残す活動をプラスすることで、公の方へと結びつくのではない【40～59歳女】
- ・ 学問的にも散居村の重要性等は概念的に早くから進んでいると思うが、散居村の空き家活用(住んでもらうこと)に対して確固たる計画がなく、前に進んでいない。強いリーダーシップで進める人と行政の強力な補助がない。砺波人の特色かもしれないが、誰かがやってくれるのではない【60歳以上男】

＜観光資源としての取組＞

- ・ 1週間程度、散居村の中で生活し、その間に富山の景観を巡るツアー【60歳以上男】
- ・ 交流人口を増やすためにも、リーズナブルでおいしい食べ物を出す店が必要(B級グルメ等)【60歳以上女】

＜農業の取組＞

- ・ 散居村は農業主体で形作られたものであり、カインヨや家だけを考えるのではなく、農業への対応もバランスよく必要と思われる【60歳以上男】
- ・ 散居村の景観は、伝統的な農家住宅が維持継承されることで保全されるが、現状は住人の高齢化と子供等との同居がほとんど見られない農家が多く、空き家の急増によって活力の無い廃村景観に向かっている様な雰囲気がある。これほどの農家住民の問題点について、具体的な解決策や支援施策等の提案がほとんどなされていない。世代交代が出来ない農家の急増は、散居景観の破壊に繋がる【60歳以上女】

＜シンポジウムの感想、その他＞

- ・ 3回のシンポジウム、非常に良い企画だったと思います。ありがとうございました(他1件)【60歳以上男・60歳以上女】
- ・ 多角的視点による今回のシンポジウムは、具体的な状況や行動の話もあり、大変有意義であった(他1件)【60歳以上男】
- ・ この様なシンポジウムは大切！散居村の再認識＋問題意識を常に持ち続けることが、活性化・活用に繋がると信じます【40～59歳女】
- ・ 今後もこの様なシンポジウムが数多く開かれると良いと思います。散居村が保全されることにより、市街地も活性化していくと思うので、もっと町なかに住む方々にも参加できるよう企画されたら良い【60歳以上男】
- ・ 市街地に住んでいるが、地域の散居村を誇りに思っており、保全に協力したいと思う。景観まちづくり条例が発効しない状況を見るにつけ、手放しでOKという人達ばかりでないことが分かってきた。同じ方向の人達ばかりでシンポジウムをするのも良いが、議会や工業関係で異なる意見を持つ人々の話も聞き、役立てることを考えてはどうか。白熱バトルの議論も有益だと思う【60歳以上男】
- ・ パネリストの意見をまとめて市広報等に載せてもらいたい。全市民に知ってもらうためにも必要だと思います【60歳以上男】
- ・ 散居村の活用と地域の発展がテーマなのに話が違う。昔の思い出話を聞きに来たのではない。発展するにはどうすればよいかの話をすべき【60歳以上男】
- ・ 行政に依頼する視点での話題が大切だと思う【60歳以上女】
- ・ この様なシンポジウムを何回やっても、最終的な結果を出さないと経費の無駄である。話ばかりでなく、すぐに行動すべき【60歳以上男】
- ・ 会場からの意見は良かった。行政からの意見もあれば、なお良かった【60歳以上男】
- ・ 広い敷地のある庭と家屋は、一戸一戸が保育所でもある、という言葉に同感した【60歳以上男】
- ・ 自分自身が屋敷林のある自宅で生活しているので、色々参考になり、自分の生活の見直しも考えました。問題は、昔と生活スタイルが違うこと、人々の考え方も違うところにある【60歳以上男】

(次ページへ続く)

(前ページ続き)

- ・ 村部以外の町部での空き家対策もあること、町部の屋敷林は、庭園としての使用方法もあることを聞けて良かった【40～59歳男】
- ・ 他地域の家でも参考になることが多かった。家族がいかに協力し、空き家の多い散居村を守っていくかが大事なことが良く分かりました【60歳以上男】
- ・ 民泊の各利用者毎の意見等も知れたかった。特に課題や意見等は、今後の取組に生かせるはずだ【60歳以上男】
- ・ 年配女性の方のパネリストがあれば良かった(家を維持されている苦労話等も聞きたかった)【60歳以上男】
- ・ 働き方や家族形態などの価値観の多様化から、今までの屋敷林には負の考え方でしたが、宗景さんの話で少し楽になった様な気がしました。しかし実際、屋敷林の家の方々はとてもつらい、という言葉が頭から離れません【60歳以上女】
- ・ 近隣住民とのコミュニケーション、地域活動への参加等は、散居村という形態にこだわらなくても良いのではないかと。農家以外の住宅で問題になっている事柄であり、本件との関わりを感じません【20～39歳男】
- ・ 県外には良い事例がある。行政はもっと公費で勉強が必要。パネリストの皆さんも行政も、(公費で)もっと県外に出て事例を見るべき【60歳以上男】
- ・ 人間の生活にとって必要なものは、①家族の絆、コミュニケーション、②地域の活性化や高齢者の現状は、そこに住む地域の人の絆と協力が第一である、③衣食住の中でも食の生産を最優先させる、④風光明媚なこと、である【60歳以上男】
- ・ 街路樹の見直しについて、電線をまたぎ小枝等が伸びており、車を走らせると大変目障りである。毎年剪定されているが、木の特徴を考えずにわずかな場所に植えたため生じた問題であり、無駄な経費の支出を抑え、道路に適した植物の配置が必要である【60歳以上男】